

誰もが安心して過ごせるように

関市立武芸川中学校1年 亀山 日向花

私には、吃音という障がいがあります。吃音とは、言葉を話す時に初めの一音がつまったり、同じ音をくり返したりする言語障がいです。世の中には、吃音を笑ったり、からかったりする人がおり、生きづらい思いをしている吃音者います。

私は、特に人前で発表する時など、きんちょうする場面で吃音が強くあらわれます。ですので、授業中はできるだけ挙手しないようにしてきました。

小学校では、学習発表会がありました。発表会は、私にとって、とてもつらいものでした。練習の時、友だちに「もっとすらすら話してね。」と言われたことがありました。友だちに悪気がないことは十分に分かっていました。しかし、家に帰ると悲しみがこみあげてきました。うまく話せないことに対する思いと友だちに迷わくをかけているのではないかという思いが重なったのです。ある日、思い切って母に相談しました。すると母は「言葉がつまることを吃音と言うんだよ。」と教えてくれました。思わず「それって、障がいみたいで嫌だ。」と言ってしまいました。母は、「そうだよ。吃音は障がいだよ。」と言い、吃音についてくわしく話してくれました。私は、頭が混乱してしまいました。

ある日、母は「吃音の会」への参加を勧めてくれました。私と同じ障がいをもった人が身近にいることを知り、ぜひ行ってみたいと思いました。

吃音の会には、多くの小学生が参加していました。自分と同じ悩みを抱えた子がたくさんいることに驚きました。自分は、一人じゃないことがわかり、とても安心しました。さらに、吃音をもちながら校長先生や担任をしている三人の先生が来てくださいました。先生方は、多くの体験談を語ってくださいました。女性の先生は、教員採用試験の面接を受ける時、とても悩んだそうです。でも、面接官に思い切って「私は吃音があります。」と打ち明けたそうです。打ち明けたら話が楽にできたとおっしゃって見えました。私は、自分の口から人に吃音があることを伝えたことはありません。まだ私には、その勇気がありません。

吃音がある校長先生は、「校長という仕事は話すことがたくさんあるので大変です。今でも言葉がつまったらどうしようときんちょうすることがあります。で

も、大事なのは話し方よりも、話の中身だよ。」とおっしゃって見えました。「吃音があると、みんな一生懸命聞いてくれるからよく伝わるよ。」と笑って話してくださいました。自分の障がいを笑い飛ばせる姿は素敵だと思いました。先生方は、多くの失敗から自分に合った方法を見つけて障がいを克服して見えました。どうしてこんなに前向きになれるのだろう、どうしてこんなに強いのだろうと思いました。

中学に入り、私は吹奏楽部に入りました。私の学校は、東海大会出場を目指し、日々練習に励んでいます。同じ楽器の二年生A先輩は、うまく音が出せない私にやさしく教えてくれます。先輩がいてくれるので、つらい練習も乗り越えられます。大会に向けて私は、誰よりも大きな声で返事をすることや、基礎練習を大切にがんばりました。その姿を見て先輩は私にどんどんアドバイスをしてくれるようになりました。先輩と共に汗を流す時間がとても幸せでした。

夏の大会が終わり、いよいよ次期部長、副部長を決めることになりました。A先輩は、副部長に立候補しました。「立候補した人がふさわしいかどうか意見を言ってください。」と言われました。今までの私なら積極的に手を挙げることはありませんでした。しかし、先輩のがんばりを一番知っている私こそが、先輩の良さを伝えなければと思いました。私は、勇気を出して挙手しました。意見を伝える時、いつものように吃音がでました。でも、吃音が出ることよりも先輩を応援したい気持ちの方が強くなりました。発表を終えると、自分の気持ちをみんなに伝えることができ、満足感で一杯になりました。先輩を応援することができ、心からうれしかったです。

努力を重ねると、自分に自信がつき、勇気もてることがわかりました。私は、これからも仲間と力を合わせて目標に向かって、毎日努力を重ねたいです。そして、自分に自信をつけていきたいです。

将来、「私には吃音があります。だけど毎日とても楽しいです。」と言える人になりたいです。吃音で悩んでいる人に、自分の経験を伝え、前向きに生きていけるよう支えられる人になりたいです。また、吃音という障がいがあることを周りの人にも伝え、理解してもらえるよう働きかけたいです。これは、障がい者を差別しない世の中につながると思います。誰もが安心して過ごせる世の中になるよう、自分にできることをしていきたいです。